

埋伏歯の矯正治療

岡崎恵一郎（オレゴンヘルスサイエンシズ大学卒）

矯正歯科臨床において「埋伏歯の牽引・配列」はそれほど頻度の高いものではない。そのため、それに関する統計データは少ないようである。牽引を行うか、あきらめて抜歯とするかなどの判断も、術者の経験により基準が変化する。近年、3D画像診断の発達により、より正確に状況を把握することができるようになり、治療の成功率も向上していると思われる。

埋伏部位別による牽引方法のコツ、診断時の留意点、私の医院での統計なども織りませながら、症例を提示したい。